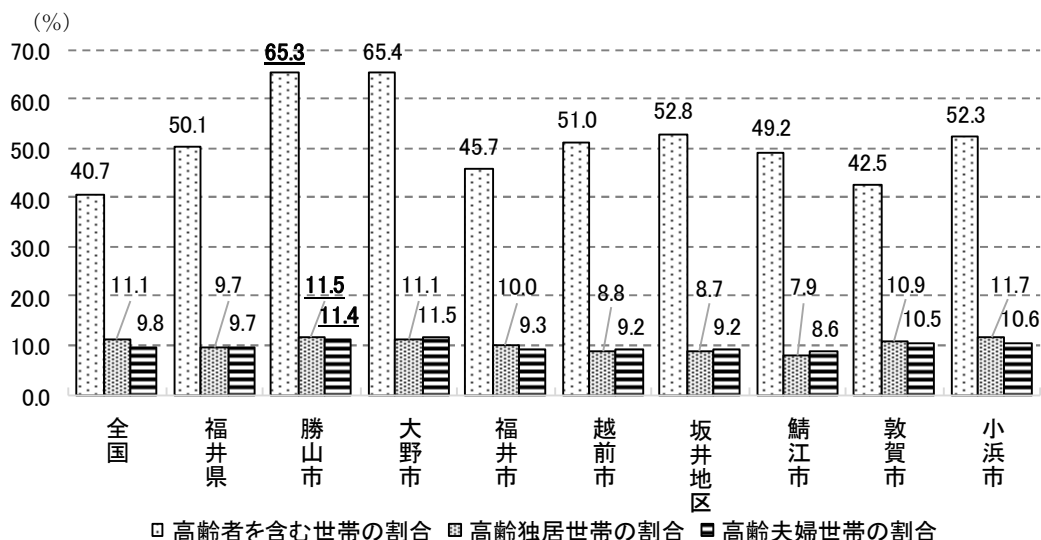


1. 「見える化システム」を活用した他市町とのデータ比較

(1) 高齢者世帯の状況

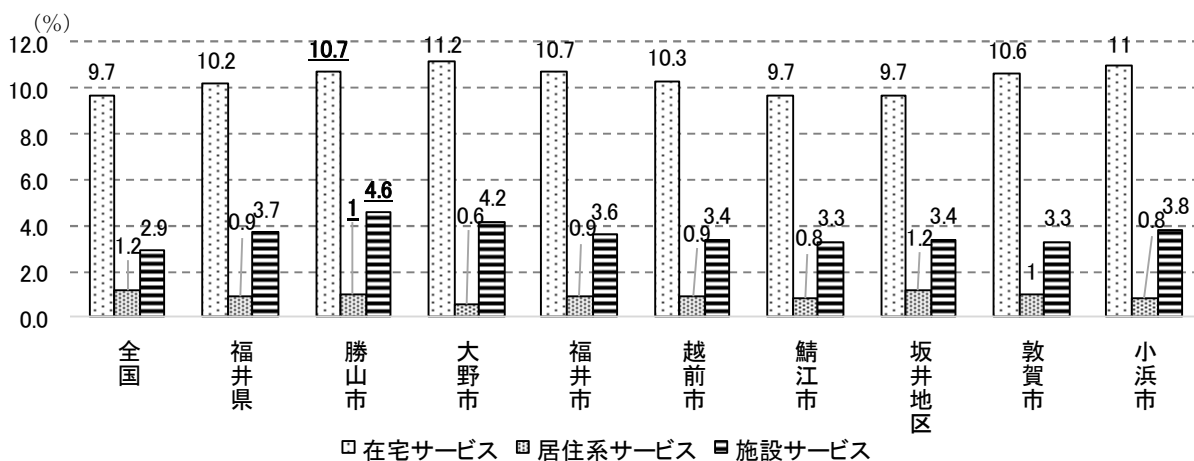
(H27 (2015) 国勢調査)



隣接する大野市とほぼ同じであり、県内の他市に比べいずれの高齢者世帯の割合も高くなっている。

(2) 介護サービスの受給率

(事業状況報告)



※受給率…受給者数÷高齢者数

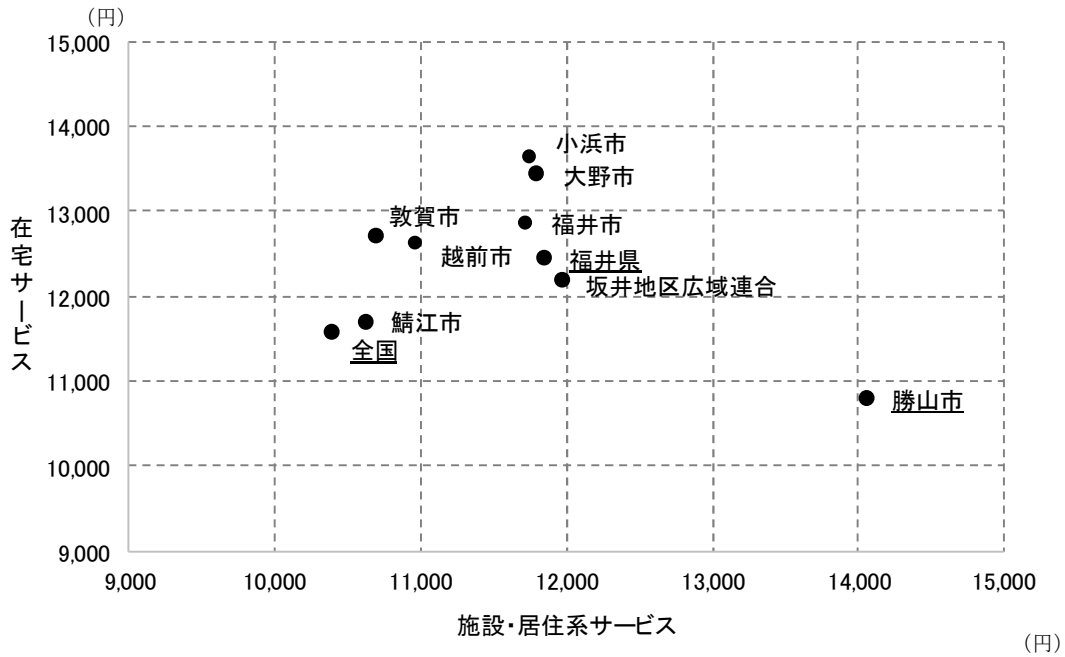
※居住系…認知症対応型共同生活介護、特定施設入居者生活介護（地域密着型含む）

※施設…介護老人福祉施設（地域密着型含む）、介護老人保健施設、介護療養型医療施設

在宅サービス、居住系サービスの受給率は県内他市と同程度であるが、施設サービス受給率は高い。高齢者数に対し、施設のベッド数が多いことが要因と考えられる。市内の施設だけではなく市外の施設入所者もあり、市内施設のベッド数を超えた受給者数となっている。(介護老人福祉施設福祉施設 245 床、12 月の受給者数 253 人)

(3) 第1号被保険者1人あたり給付月額

〈事業状況報告〉

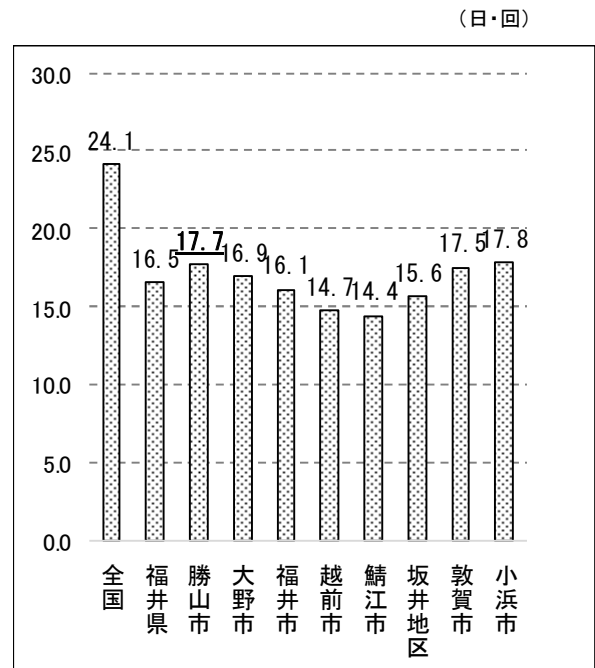
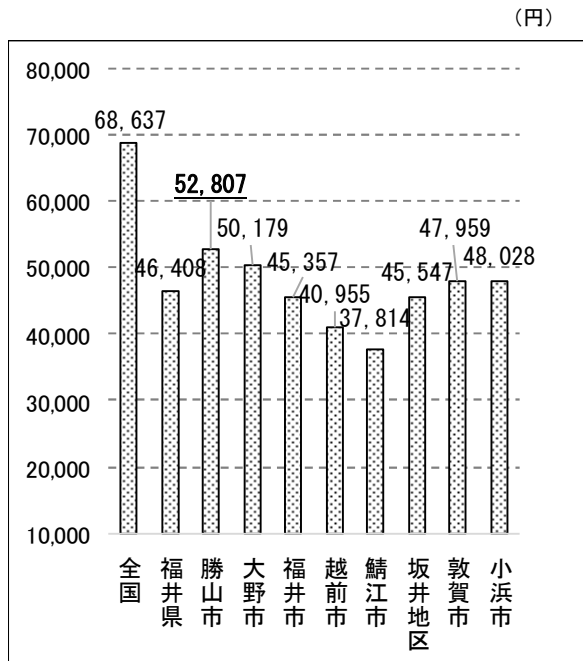


(2) の介護サービスの受給率の傾向が概ね表れている。

(4) サービス別受給者1人あたり給付月額、受給者1人あたり利用日数・回数

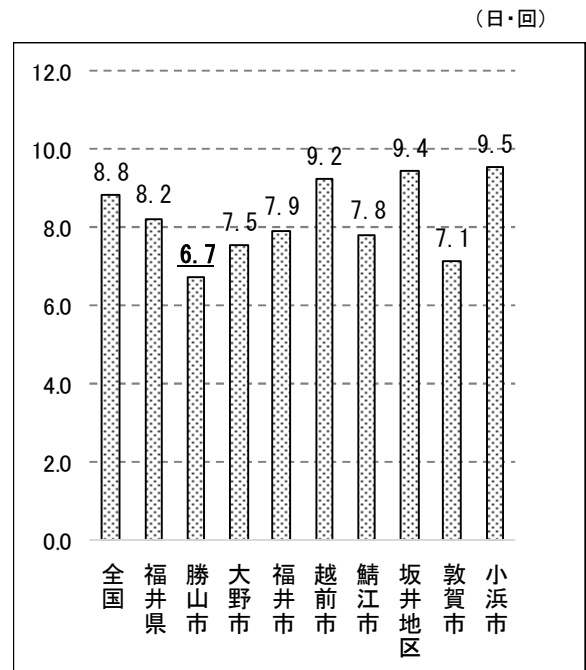
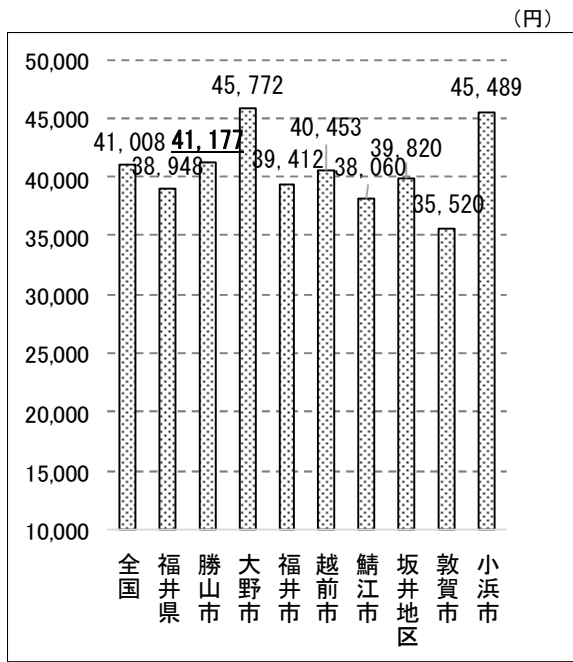
〈事業状況報告〉

①訪問介護



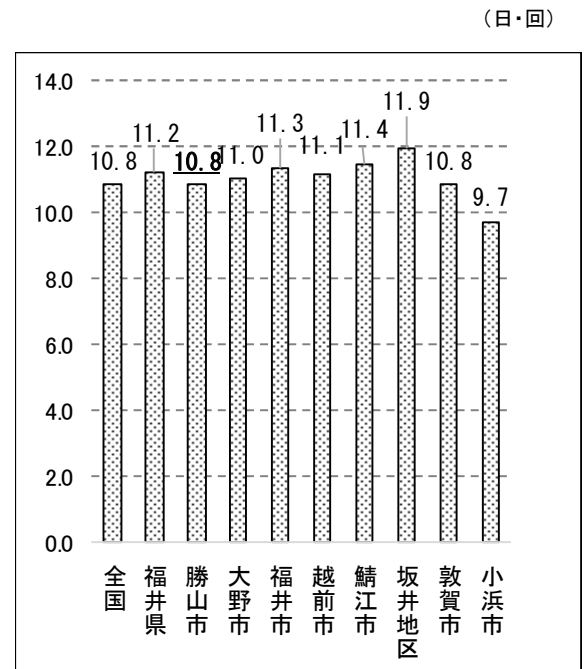
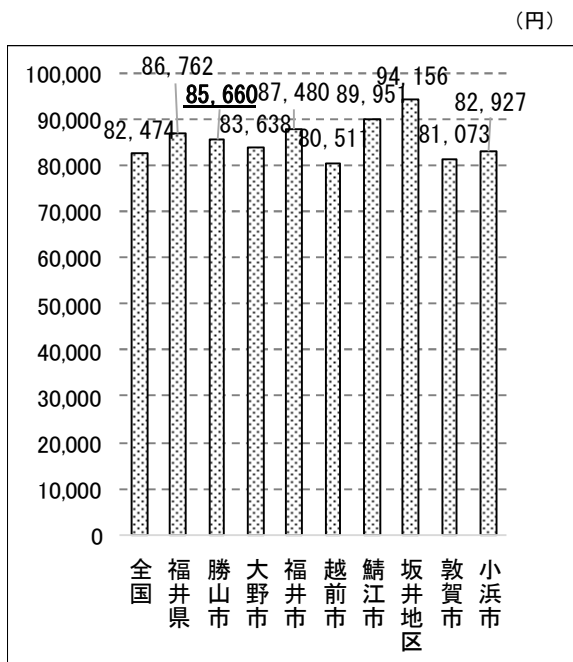
給付月額、利用回数ともに比較的多い。

②訪問看護



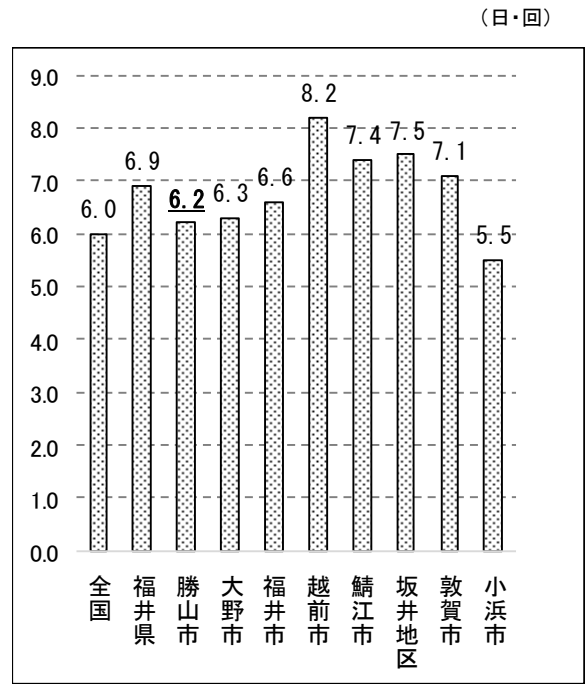
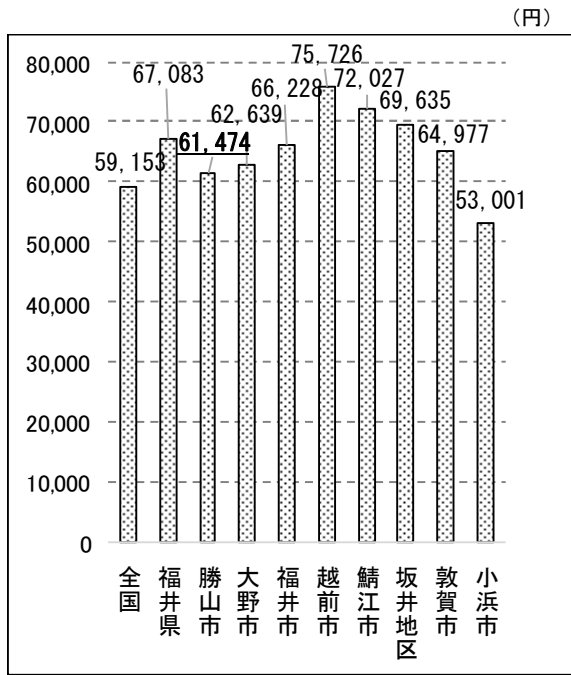
地域による差が大きい。給付月額は県平均より多いが、利用回数は少ない。

③通所介護



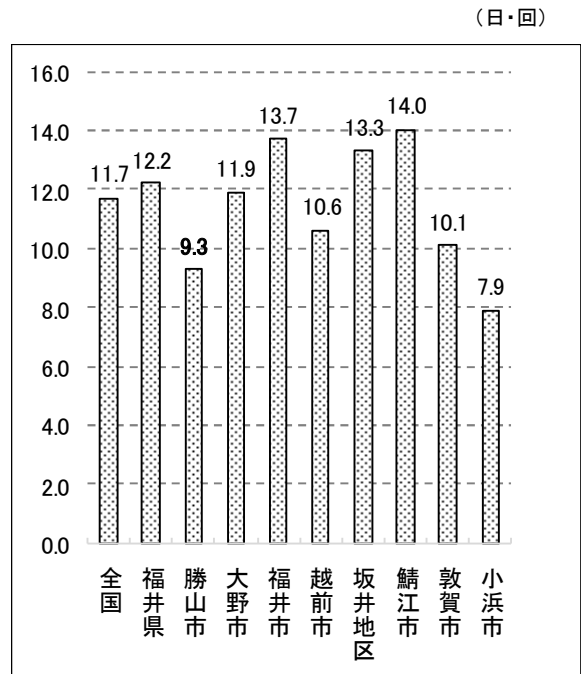
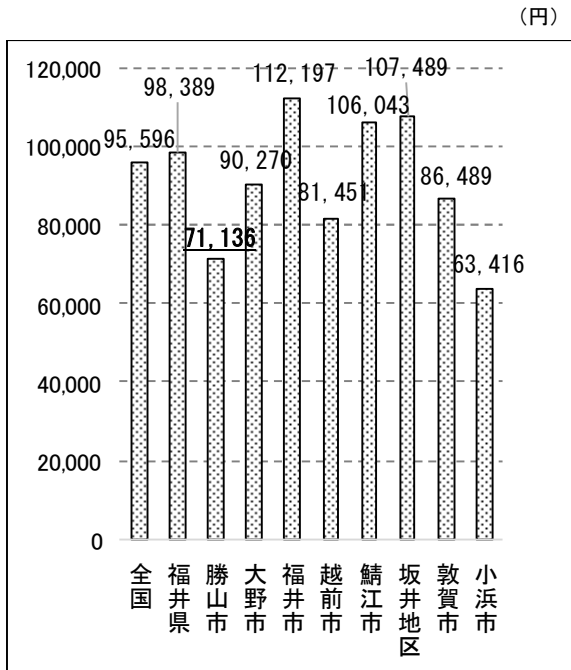
他市との傾向に大きな差はみられない。

④通所リハビリテーション



給付月額、利用回数ともに比較的少ない。

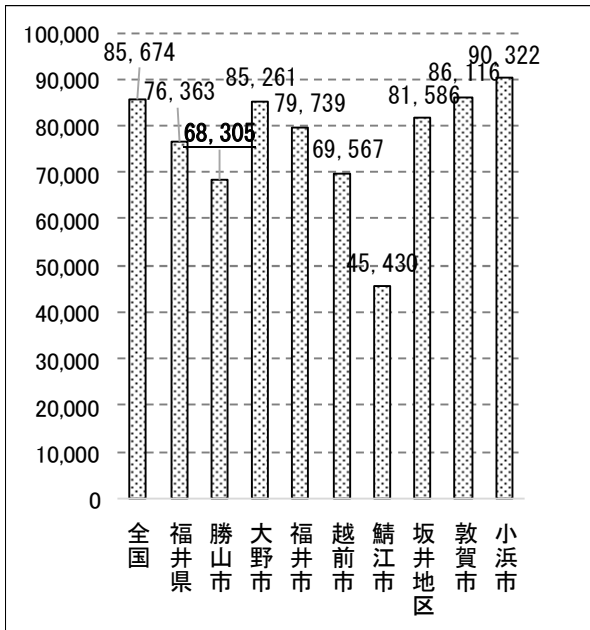
⑤短期入所生活介護



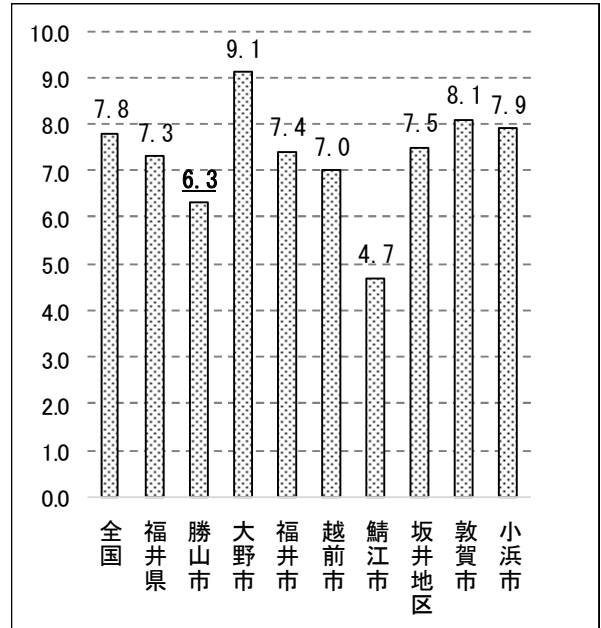
給付月額、利用回数ともに少ない。

⑥短期入所療養介護

(円)



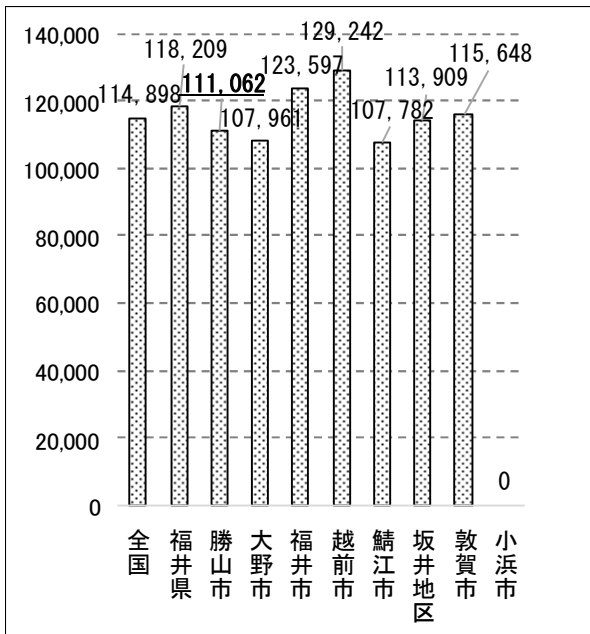
(日・回)



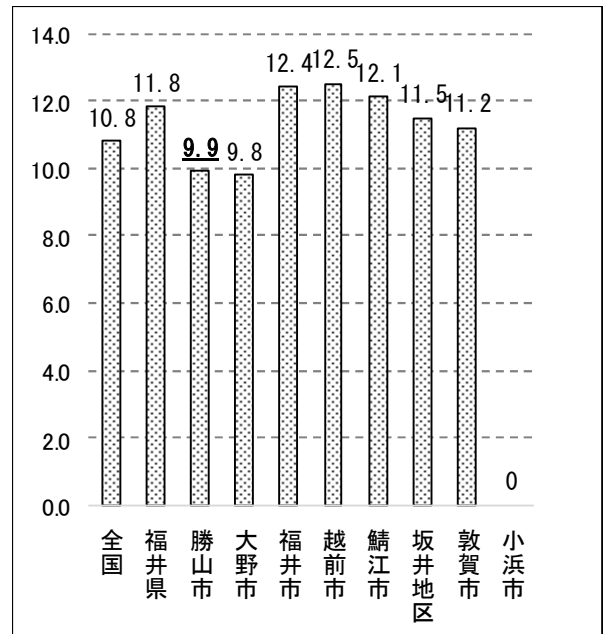
給付月額、利用回数ともに少ない。

⑦認知症対応型通所介護

(円)



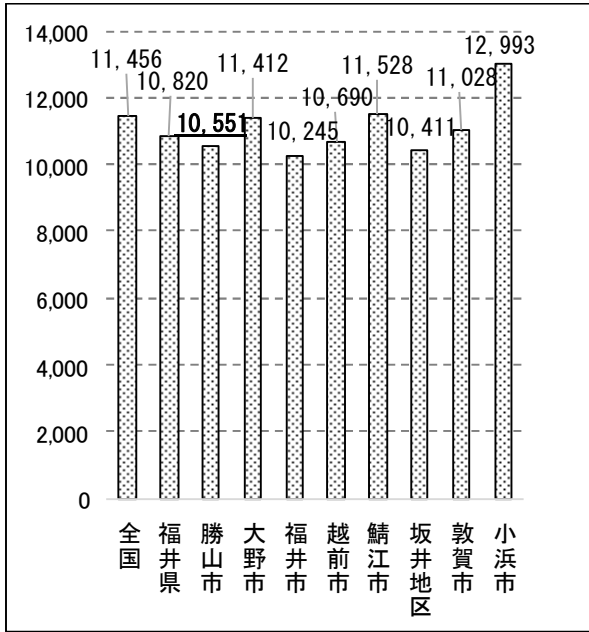
(日・回)



給付月額は国・県平均と同程度だが、利用回数は比較的少ない。

⑧福祉用具貸与

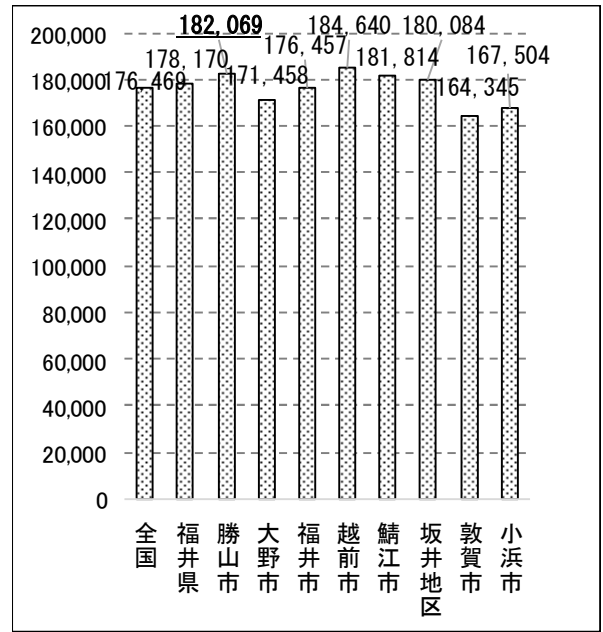
(円)



大きな差はみられない。

⑨特定施設入居者生活介護

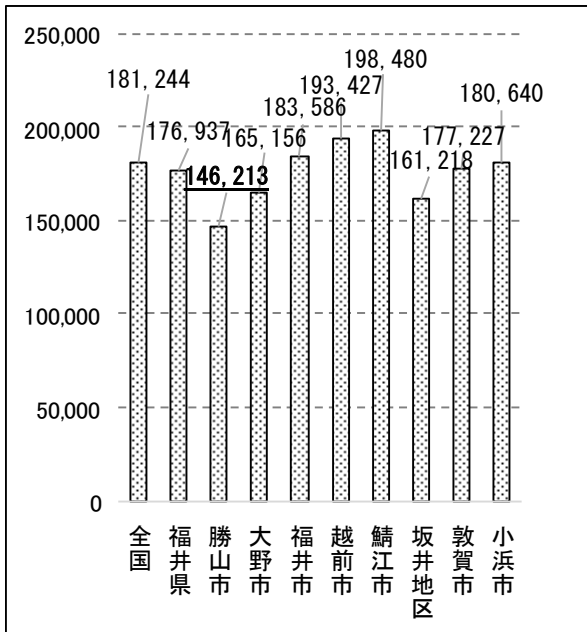
(円)



大きな差はみられない。

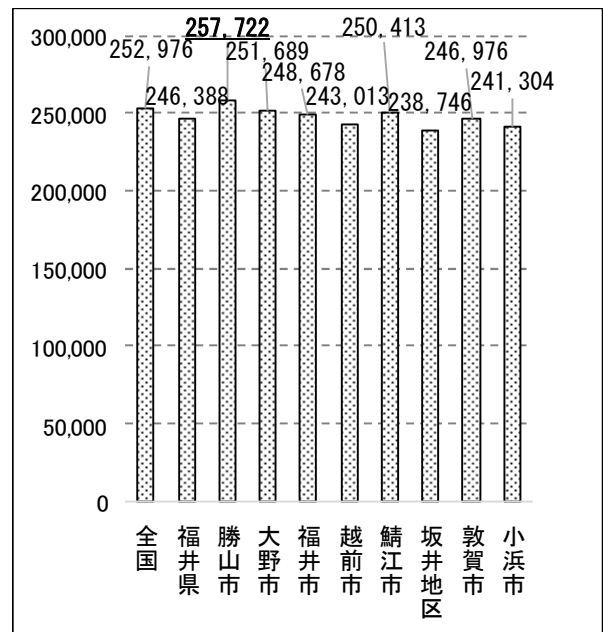
⑩小規模多機能型居宅介護

(円)



地域による差が大きい。県平均より多いが、全国平均と同程度である。

⑪認知症対応型共同生活介護

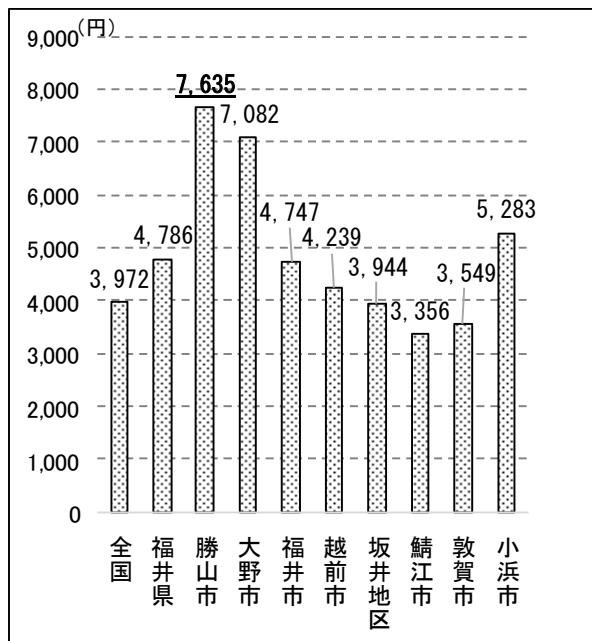


(5) 施設サービス

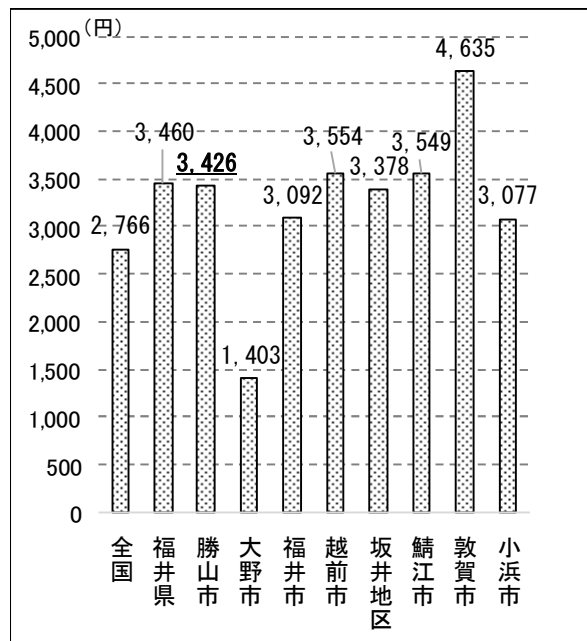
〈事業状況報告〉

③第1号被保険者1人あたり給付月額

介護老人福祉施設



介護老人保健施設

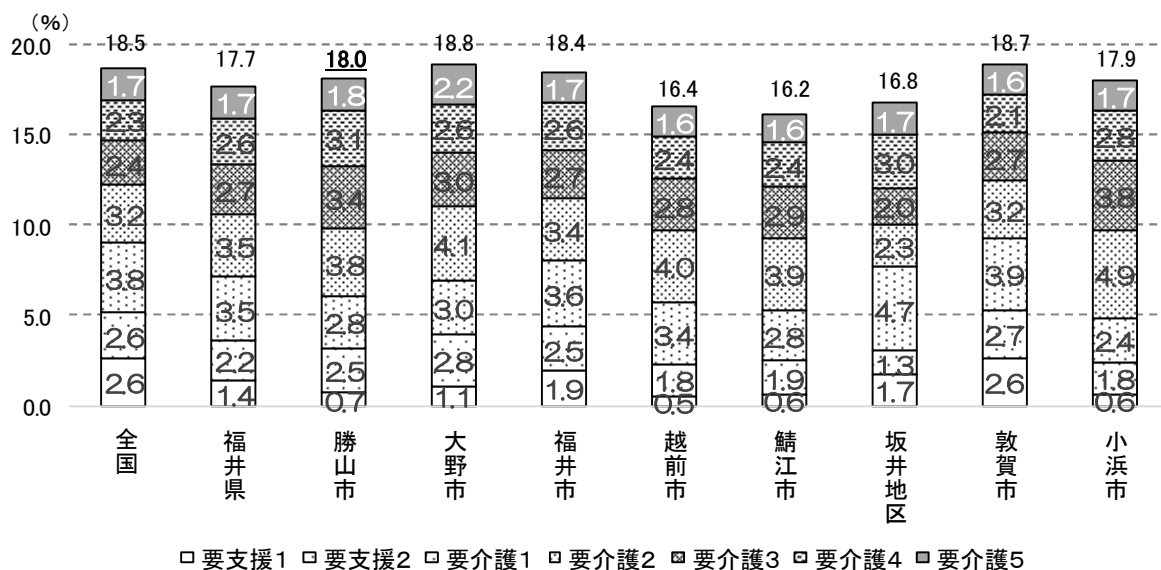


介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）は県内で最も高い。介護老人保健施設は県平均と同程度である。

(6) 要介護・要支援認定率

〈事業状況報告〉

①介護度別認定率（2019年）

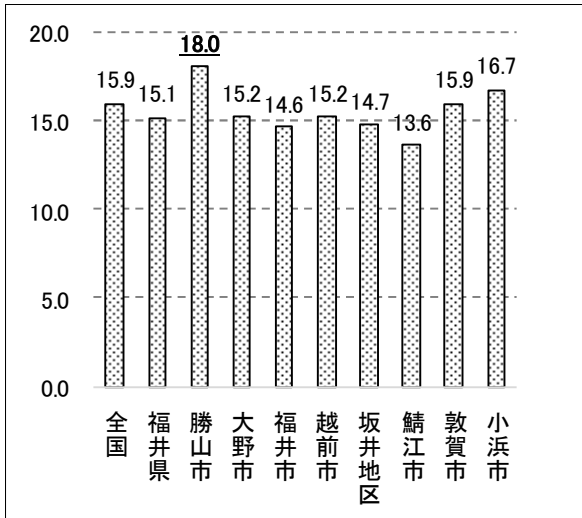


※認定率…第1号被保険者のうち要介護・要支援認定を受けている割合

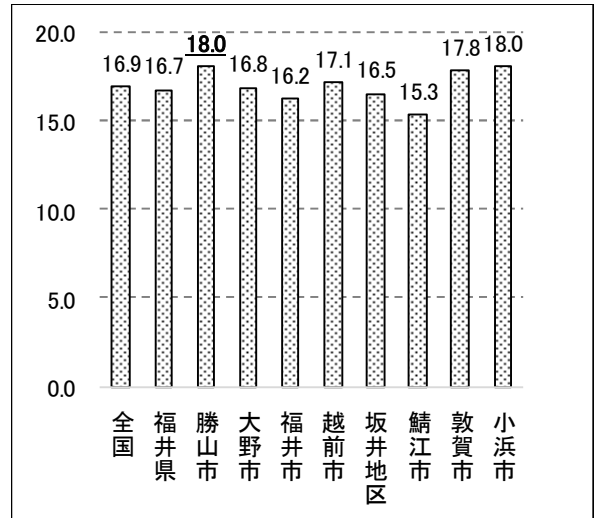
要支援1の認定者数が少ない。

②要介護・要支援認定率の推移

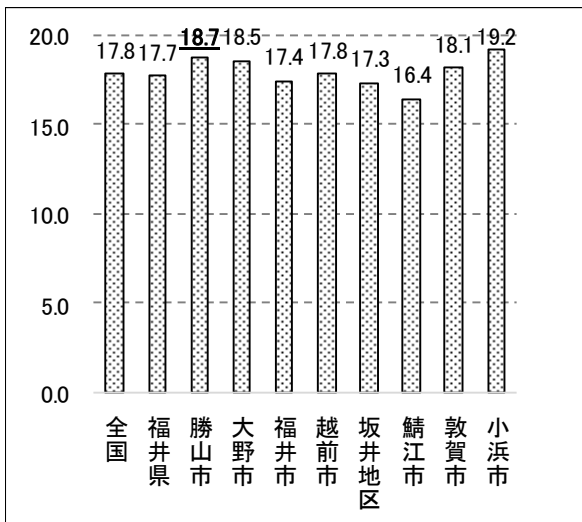
2007年（H19）



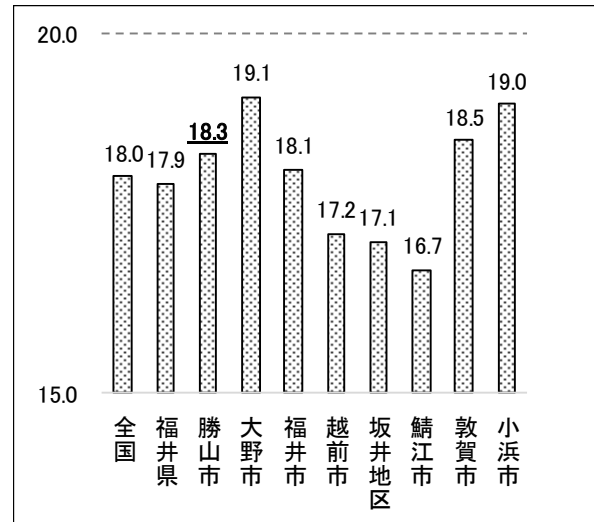
2010年（H22）



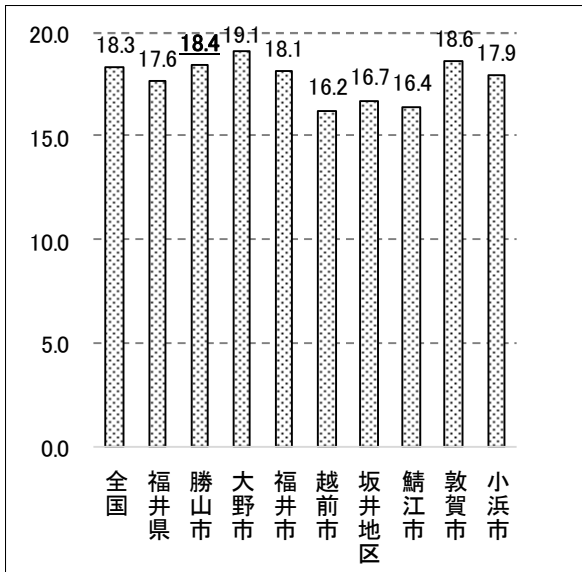
2013年（H25）



2016年（H28）



2013年（H25）



2007年は県内の市の中で、認定率が最も高かった。他市の認定率は上昇してきたが、勝山市の認定率はほぼ横ばいとなっている。介護予防の効果が一定程度あると考えられる。

2. データの比較から見える勝山市の特徴

- 在宅サービス全体の受給率（受給者数÷高齢者数）は県平均と同程度である。
- 高齢者の世帯状況は、隣接する大野市と似ており、「高齢者を含む世帯」、「高齢者独居世帯」、「高齢夫婦世帯」のいずれも割合が高い。
（「高齢者独居世帯」、「高齢夫婦世帯」では、家族の介護力が低いと考えられる。）
- 第1号被保険者1人あたり給付月額、他市との比較では「施設及び居住系サービス」の額が多く、在宅サービスは少ない。
（施設の整備率が高い、世帯構成により入所・入居の必要性が高い等の要因が考えられる。）
- 訪問介護の利用が多い。
（世帯構成により生活を支えるため需要多い等の要因が考えられる。）
- 短期入所生活介護、短期入所療養介護の利用が少ない。
（入所入居が多いため需要がないのか、施設が受け入れられないのか等、調査の必要がある）
- 要介護・要支援認定率の推移は、他市及び県平均は上昇傾向だが、勝山市はほぼ横ばいとなっている。
（介護予防の効果が一定程度あると考えられる。また、総合事業対象者の認定により要支援1の認定者数が少なくなっていると考えられる）